

事業名 西田橋移設復元事業

鹿児島の歴史を知る場の一つとして、広く県民に親しまれ石橋の末永い保存活用を目的として整備した利用者等の評価の高い事業

受賞機関 鹿児島県鹿児島土木事務所
 事業実施期間 平成8年2月～平成12年4月
 事業費 5,748百万円

事業等の特徴

昭和28年に県指定有形文化財に指定され、広く県民にも親しまれている西田橋を保存するため、鹿児島市内の甲突川に架かる5つのアーチ石橋のうち、2橋が平成5年8月、集中豪雨により流出、3橋が残った。河川改修にあたり、これらを移設保存することとなった。本事業は県の有形文化財に指定された「西田橋」の保存については公園事業を活用することにより安全な場所に移設、復元した事業であり、新たに建設された石橋記念館を含め、石橋を文化的資産、歴史的資産として、保存・活用を図るべく石橋記念公園として平成12年4月に開園された。小中学校の課外授業等に広く活用されている。

事業の概要と利用者等の評価

鹿児島市の中心を流れる甲突川に架かるアーチ石橋は、「甲突川の五石橋」として広く県民に親しまれてきた。しかし、平成5年8月6日の集中豪雨による洪水で、このうちの2橋が流出した。残った3橋は、貴重な文化遺産として後世に確実に残すため、河川改修に併せて移設保存することとした。

「西田橋」は移設した3橋のうち、昭和28年に県指定有形文化財に指定された県道に架かる橋であり、県が移設し、残る2橋は鹿児島市が移設をした。石橋の移設先の選定及び解体復元にあたっては、学識経験者や各界の有識者からなる委員会をそれぞれ設置し、移設先及び解体復元にあたっては、委員会の指導・助言を得ながら作業を進め、平成12年4月25日「石橋記念公園」として開園した。

石橋記念公園の整備にあたっては、先人の石橋に込めた技術を伝えること。単に石橋の形状のみでなく、親水性や周囲の景観にも配慮すること。移設復元に係る一連の作業を記録保存し、広く公開すること。石橋復元に合わせて、移設地の歴史を伝えることをキーワードとし、可能な限り移設地の遺跡に配慮しながら、周辺景観や動線等を考慮して3橋を配置した。河口兩岸を人道橋で結ぶとともに、取付護岸の復元のほか、石橋の下には水の流れを創



全景

出し親水性を持たせ、さらに、御門の復元、五石橋の歴史や技術を伝える石橋記念館を建設し、鹿児島の歴史を知る一つの場となるような園地整備を行った。



移設復元された西田橋

石橋記念公園は、平成12年4月25日の開園以来、県内外の多くの利用があり平成13年10月7日には、入館者が20万人を突破したところである。

石橋記念公園の立地場所は、鹿児島市の水族館から島津藩の別邸である仙巖園への観光ルート上にあることから、新しい観光スポットとして旅行会社からの評価も高く、平成12年度総入館者の約1/4の33,000人がツアーによるものであった。

また、鹿児島の歴史を知る場として小、中学校の屋外授業にも利用されており、平成12年度は16校の実績があった。利用者からは、記念館の展示内容や解説についても「わかりやすい」と好評を得ている。

さらに、当公園の特徴である西田橋下の水の流れは、循環方式により水質管理を行っており、初夏から10月上旬にかけて、小学生や幼児が水遊びを楽しむ姿が見られる。

平成13年度12月末現在の入館者は昨年の同月比で103%、特に、県外の団体利用者は180%であることから、観光連盟、観光コンベンション協会等への広報活動の効果があったものと考えられる。

審査委員会委員の意見等

- ・県民に親しまれた歴史的な橋を保存しただけではなく、教育の場として活用している点が良い。
- ・災害復旧だけにとどまることなく、公園事業や記念館事業とも連携させて、移設し、小中学校の屋外授業との連携を図っている点は高く評価できる。また、県外へのPR等ソフトの工夫もなされていて興味深い。
- ・九州に残る重要な遺産として石橋がたびたび紹介されているが、なかなか日常の活用に難しい問題も指摘されている。活用例として評価したい。
- ・歴史的な石橋が永久保存されたことは、土木史的にも喜ばしいことであり評価できる。